

遠藤原子力委員長代理の海外出張報告について

平成 14 年 10 月 22 日
内閣府原子力担当

1. 目 的

マレーシアのエネルギー、原子力関係要人との会談を行うとともに、クアラルンプールにて開催されるマレーシア科学技術環境省主催の国際原子力会議 2002 (International Nuclear Conference '02) において、日本の原子力政策に関する講演を行い、原子力政策に係る意見交換を行った。

2. 出張者及び日程

(1) 出張者：遠藤 原子力委員長代理

(2) 日 程：10 月 13 日 (日) ～ 16 日 (水)

10 / 13 (日) 日本発 クアラルンプール着

14 (月) エネルギー、原子力関係要人との会談

15 (火) 国際原子力会議 2002 出席

16 (水) クアラルンプール発 日本着

3. 結果概要

(1) エネルギー、原子力関係要人との会談

マレーシアのレオ・モギ エネルギー・通信・マルチメディア大臣と会談し、エネルギー供給、経済発展と環境に関してと、中・長期的なエネルギー政策と原子力の役割についての意見交換を行った。

また、ロウ・ヒェンディエン 科学技術環境大臣と会談し、マレーシアでの中・長期的な原子力利用の計画や原子力利用の位置付け、将来の我が国とマレーシアの原子力や科学技術の分野での協力などについて意見交換を行った。

マレーシアでは、天然ガスを主体として、石油、石炭、パームによるバイオマスなどエネルギー資源に恵まれており、エネルギー源としての原子力は、最後の手段としての位置付けになっている。また、放射性廃棄物と安全の観点から、原子力発電については保留の立場をとっている。したがって、原子力の利用は放射線利用に特化しており、現状では人材の確保に課題もあるもようである。

(2) 国際原子力会議 2002

マレーシア科学技術環境省主催の国際原子力会議 2002 に出席した。本会議は前回 1997 年に開催されている。

開会式において、マレーシアのマハティール首相による核不拡散や軍縮をテーマとした演説があり、偏重した一方的な判断に基づく一部の国により、これらの活動が阻害されているとの主張があった。

本会議の総会において、「持続可能な発展と原子力」をテーマとして、京都議定書と原子力、日本並びにアジアと原子力、アジアでの原子力協力に関する講演を行った。

以 上